

第 29 回「大阪の消防大賞」受賞者

消防職員の部

所属	受賞者	功 績	概 要
大阪市 消防局	浪速消防署 第 1 中隊 (30 人)	<p>共同住宅の火災でベランダから身を乗り出した要救助者を、はしご車で救出した。</p> <p>平成 25 年 9 月 28 日午前 0 時ごろ、大阪市浪速区の共同住宅で火災が発生。10 階建ての 8 階室内から猛烈な火炎にあおられていた女性がベランダを乗り越えて、手すりにつかまり、一刻の猶予も許されない状況だった。夜間で視界が悪い状況の中、各隊が相互に連携し、はしご車を最適な位置へ誘導し、救出した。</p> <p>女性を保護するための援護注水を行うなど、一丸となって人命を救助した。</p>	
堺市消防局	南消防署 第 2 警防課 梯子付タンク小隊 (4 人)	<p>ガソリンスタンドで発生した危険物の火災で被害を最小限にとどめた。</p> <p>平成 25 年 11 月 9 日午前 10 時ごろ、堺市南区のガソリンスタンドから黒煙が上がり火災が起きていることを別の火災現場へ向かう途中で発見。すぐに現場の状況を通信指令課へ知らせ、別部隊の出動を要請するとともに現場での活動を開始。小型バイクに延焼しており、近くにあったタンクローリーを安全な場所へ移動するように指示するなど、迅速な消火活動を展開。爆発などの危険がある中、負傷者を一人も出さなかった。</p>	
堺市消防局	堺消防署 第 1 警防課 救急隊ほか (5 人)	<p>通報者に適切な指示を行い心肺停止の男性を救った。</p> <p>平成 25 年 10 月 31 日午前 9 時ごろ「堺市堺区の路上で男性が突然倒れた」という 119 番通報を受信。指令員は通報者に口頭で指導を行い、意識がなくなり心肺が停止した男性に胸骨圧迫を実施させた。現場に到着した救急隊が除細動や心肺蘇生法などを行い、心拍と呼吸が再開。</p> <p>ドクターカーへ引き継いだ。通りかかった非番の職員も救急活動に協力。男性は 3 日後に意識が戻り、1 カ月もたたないうちに退院した。</p>	

所 属	受 賞 者	功 績	概 要
堺市消防局	警防部警防課 調査係 (5人)	車両火災の出火原因を特定、メーカーによるリコールを実施させた。 平成 25 年 5 月 13 日、堺市西区の店舗駐車場で発生した車両火災の出火原因を調査。当該車両のメーカーとディーラー、国土交通省近畿運輸局担当者の立ち会いのもと、車両鑑識を実施し、吸気ダクトの部品の強度に問題があることを確認した。調査結果に基づき、メーカーに対策の必要性を粘り強く説明して、メーカーによる自主回収へ導いた。 当該車両約 65 万台がリコールされることになり、同消防局管内だけでなく、全国的な火災予防に貢献した。	
枚方寝屋川 消防組合 消防本部	警防部警防課 調査担当 (5人)	ぬれたろうそく立ては芯が飛び、引火の恐れがあることを発見した。 平成 25 年 2 月 5 日午後 7 時 7 分頃、枚方市の建物で発生した火災の原因を究明。調査、研究を重ね、ろうそく立てに水分が残った状態でろうそくを使用すると、火が付いた芯がごくまれに飛び、火災につながる危険があることを発見した。製造会社や仏具店に情報を提供するとともに、類似火災を予防するために市民への広報活動を行った。 情報を受け、製品パッケージに注意喚起の文言を追記するなどの対応がとられた。	
吹田市 消防本部	警防救急室 救助課 伊藤 俊一	大浴場の浴槽であおむけに浸かっていた男性に応急処置を施し、意識と呼吸を回復させた。 平成 24 年 11 月 3 日午後 5 時ごろ、和歌山県白浜町で旅行中、ホテルの大浴場であおむけになり、顔面の半分以上が湯に浸かっている男性を発見。直ちに引き上げたが、顔面は青白く、意識状態も悪く、呼吸も確認できない状態だった。湯を誤飲している様子だったため、吐かせるなど応急処置を施したところ、意識と呼吸が回復。到着した救急隊に引き継いだ。男性は 2 日後に退院した。	

消防団員の部

所 属	受 賞 者	功 績	概 要
四條畷市 消防団	185人	面積の 3 分の 2 を山間部が占める四條畷市の森林火災を防ぐ活動に尽力。 平成 23 年 3 月、山林に放置されたゴミと伐採した樹木など約 70 トンが焼失する火災が発生。直近の消火栓から現場までの距離が約 1 キロを超え、消防車両 7 台、ホース 96 本の総延長距離が約 1.9 キロにも及ぶ長距離中継放水を行い、見事に消火した。乾燥の激しい時期にも関わらず、森林への延焼を阻止できたのも、これまで培ってきた訓練のたまものだった。同市では昭和 45 年に大規模森林火災が起きており、その教訓から団員による防火啓発活動や訓練が活発に行われている。	